

令和 6 年 9 月 26 日現在

機関番号：32629

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12331

研究課題名（和文）シェイクスピア後期作品群における女性表象の政治性について

研究課題名（英文）The Politics of Representations of Women in Shakespeare's Late Plays

研究代表者

塚田 雄一（Tsukada, Yuichi）

成蹊大学・文学部・准教授

研究者番号：60780294

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究「シェイクスピア後期作品群における女性表象の政治性について」では、ロマンスと歴史劇から成る一連のウィリアム・シェイクスピアの後期作品群と、同時期の政治情勢、人々の政治・社会認識の関係を解明し、シェイクスピア後期作品群の文化的・社会的意義について新たな見解を呈示・論証する。本研究は四部構成である。第一部「1610年代の政治言説」で当時の人々の政治・社会認識を調査した上で、第二部「後期劇と宗教」と第三部「後期劇と軍事主義」において、シェイクスピア後期作品群に登場する女性表象が帯びていた時事性の分析を行い、第四部として、本研究のまとめを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
芸術と社会・政治情勢がどのような相互影響関係をもっているのかを主にシェイクスピア演劇を題材として考察した。その際、本研究では特に演劇作品にどのように女性が表象されているかに着目し社会や当時のジェンダー観が作中の女性像を考える上で鍵となることに留意して分析を行った。本研究を通じて、芸術と社会の関係性に関する研究に、また新たな議論の材料を提供できたのではないかと考えている。

研究成果の概要（英文）：The project entitled "The Politics of Representations of Women in Shakespeare's Late Plays" aims to examine the relationship between a series of William Shakespeare's late plays and their political and social contexts. By doing so, it seeks to present and demonstrate new perspectives on the cultural and social significance of Shakespeare's late plays. The study is structured into four parts. The first part, "The Political Discourse in the 1610s," investigates the political and social awareness of the people during that period. In the second part, "Shakespeare's Late Plays and Religion," and the third part, "Shakespeare's Late Plays and Militarism," I analyse the contemporary relevance of female representations in Shakespeare's late plays. The fourth part serves as the conclusion of this project.

研究分野：イギリス演劇、シェイクスピア

キーワード：演劇 シェイクスピア

1. 研究開始当初の背景

イングランドの劇作家ウィリアム・シェイクスピアがジェームズ一世の時代に執筆した作品には、シェイクスピアがエリザベス一世の時代に執筆した作品にはあまり見られなかった特有の言語表現および政治的・宗教的な女性表象が効果的に用いられている。過去の研究において、ジェームズ朝期のシェイクスピア劇が上演当時、同時代的な政治性・宗教性を帯びていた可能性が指摘されてきた。本研究では、それらの研究をさらに推し進め、ジェームズ朝期の作品の中でも、特にシェイクスピアの後期作品群に焦点を当て、シェイクスピアに手になる女性表象の時事性・政治性を、同時代の広範囲の言説とともに分析し、シェイクスピア劇と上演当時の社会の間にあった密接な関係を考察する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ロマンスと歴史劇から成る一連のウィリアム・シェイクスピアの後期作品群と、同時期の政治情勢、人々の政治・社会認識の関係を解明し、シェイクスピア後期作品群の文化的・社会的意義について新たな見解を呈示・論証することにある。特にシェイクスピアのロマンス劇である『ペリクリーズ』(*Pericles*)、『シンベリン』(*Cymbeline*)、『冬物語』(*The Winter's Tale*)、『テンペスト』(*The Tempest*)、『二人の貴公子』(*The Two Noble Kinsmen*) および歴史劇である『ヘンリー八世』(*Henry VIII*)における女性表象に着目し、それらを説教集、詩集、バラード、パンフレット、劇作品をはじめとした、17世紀初期のイングランドで広く流通していた種々の出版物に繰り返し登場する特徴的な女性表象の中に位置づけることを通じて、シェイクスピアによる女性表象の同時代性を深く考察する。

3. 研究の方法

本研究では、1610年代に流通した女性表象に関する膨大な言説を精査した上で、シェイクスピア後期作品群に登場する時事性・政治性を帯びた女性表象を丁寧に分析し、両者の間に密接な繋がりがあることを指摘した。女性表象分析の重要性をふまえ、当時の社会・政治情勢とシェイクスピアの後期作品群との関係を考察した。

本研究は四部構成とした。第一部「1610年代の政治言説」で当時の人々の政治・社会認識を調査した上で、第二部「後期劇と宗教」と第三部「後期劇と軍事主義」において、シェイクスピア後期作品群に登場する女性表象が帯びていた時事性の分析を行い、第四部として、本研究のまとめを行った。

第一部では、Conal Condren, *Argument and Authority in Early Modern England* (2006)、David Norbrook, *Poetry and Politics in the English Renaissance*. Rev. ed. (2002)、Michelle O'Callaghan, *The 'Shepherd's Nation'* (2000)、W. B. Patterson, *King James VI and I and the Reunion of Christendom* (1997)をはじめとした政治的・宗教的な言説をめぐる基本的な先行研究をふまえた上で、17世紀初頭の言説に登場する女性表象を自ら収集・分析した。

第二部では、第一部の研究成果をふまえてシェイクスピアの後期作品である『ペリクリーズ』(*Pericles*)、『シンベリン』(*Cymbeline*)、『冬物語』(*The Winter's Tale*)、『テンペスト』(*The Tempest*)のテキスト分析を行うことで、これらのシェイクスピアのロマンス劇が初演時にもちえた政治性と宗教性を考察した。

第三部では、シェイクスピアとジョン・フレッチャーの共作『ヘンリー八世』(*Henry VIII*)と『二人の貴公子』(*The Two Noble Kinsmen*)の研究を行った。ヘンリー王子が急死するなどした1612年以降、イングランドの政治情勢は大きく揺れ動いたが、それと連動するかのよう、特定の政治性を帯びた女性表象がさまざまな言説に登場した。当時、劇作家たちもそれらの言説とは無縁ではなく、むしろ積極的に政治的な女性表象をその作品に登場させていた。こうした社会的背景をふまえ、第三部では、『ヘンリー八世』と『二人の貴公子』における女性表象を、当時流通していた劇場内外の政治的な女性表象をふまえて再考し、その政治性を分析した。

第四部では、第一部から第三部で得た知見をまとめ、シェイクスピアの後期作品群と上演当時の政治的・宗教的な言説の間に密接な繋がりがあったことを指摘した。

4. 研究成果

・査読論文“Representing Philip II of Spain in Jacobean England: Thomas Heywood's *If You Know Not Me, You Know Nobody, Part I*”『日英文学研究 支部統合号(関東日英文学研究)』, 日本英文学会, 第12号, pp. 139-146, 2020.

・パネルディスカッション口頭発表「近代初期英文学と女性」,第58回日本シェイクスピア協会
全国大会,鹿児島国際大学,2019.

その他、現在査読論文投稿中。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Yuichi Tsukada	4. 巻 12
2. 論文標題 Representing Philip II of Spain in Jacobean England: Thomas Heywood's If You Know Not Me, You Know Nobody, Part I	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英文学研究 支部統合号（関東英文学研究）	6. 最初と最後の頁 139-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 塚田雄一
2. 発表標題 Nathaniel Butterと劇作家たち 17世紀初期ロンドンの演劇出版文化
3. 学会等名 十七世紀英文学会関西支部第219回例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 塚田雄一
2. 発表標題 「ヘンリー五世は戦争犯罪者か」という問いを2010年代に再考する 『ホロウ・クラウン』と『キング』
3. 学会等名 日本シェイクスピア協会 第2回シェイクスピア勉強会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塚田雄一
2. 発表標題 パネル・ディスカッション「近代初期英文学と女性」
3. 学会等名 第58回シェイクスピア学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------